

# 一般財団法人 全国大学実務教育協会 会報

第11号  
May 2014

「落第」考

## CONTENTS

巻頭論文	2
「能動的学修の教員研修リーダー講座」の プログラムについて	3
平成25年度実務教育優秀教員被表彰者寄稿	4
平成25年度 会長賞受賞者紹介 (No. 1)	5
実務教育の現場から	6・7
協会からのお知らせ	8

 一般財団法人 全国大学実務教育協会  
Japan Association of University and College for Business Education

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12  
第三東郷パークビル二階  
TEL:03-5226-7288 FAX:03-3263-8633  
E-mail:jaucb@jaucb.gr.jp  
PC:<http://www.jaucb.gr.jp>  
携帯:<http://www.jaucb.gr.jp/mobi>



# 「落第」考



一般財団法人 全国大学実務教育協会 代表理事・副会長  
新潟青陵大学 理事長 関 昭一

ドイツの教育はマイスター制度の影響もあってか、ギムナジウムからでなければ大学へは進めない厳重な複線方式で、その所為か？幼稚園から「落第」がある(我々日本人には到底信じて貰えない?)そうですが、最近のドイツでは大学志望者が増加してその複線方式も緩んでいると聞きました。

徳川幕府時代の末期に全国で3,4万校もあったかと推測され、庶民が生きる為の読み書きを教えた寺子屋(世界でもダントツの識字率を誇りました。)で試験や落第があったとは聞きません。また土農工商の筆頭である武士階級の教育には幕藩が維持、運営する藩校が在りましたが、その成績が後々の役職に影響した例は少なかったようです。藩校も寺子屋も厳格な「落第」が無かったとすれば両者ともに今で言うカルチャー・スクールの存在と言えそうです。そして明治の御一新後に全国に設立され大正、昭和と受け継がれた小学校(義務教育)は、その普及に精一杯で「落第」(達成度確保)は無理だったのでしょう。

進学率20%程度の戦前の中等教育には農業、工業、商業など職業学校も設置されていました。地主の子弟を集めた農学校は名門校でしたし、赤化の恐れがあるとして大学進学を許されない商家の後継ぎが入学の商業学校は、例えば新潟市ではその同窓会が文字通り隠然たる政治力を持ちました。そこでは「落第」が無い訳ではないが滅多にあるものでもなく、目的な「達成度」が機能していたようです。いまの高校では進学校優位の序列化が進んで、職業高校にまでも進学コース設置が大勢の反面として、授業に随って行けない生徒が小学校5年生で3割、中学校2年生で5割、高校2年生で7割の「7,5,3現象」が秘かに囁かれたりもするのです。それは何よりも高校教育が高校生急増を経て高校進学率が殆ど100%にも近くなり、所謂ユニバーサル化を通り越して義務教育化して仕舞ったことが理由であり、「落第」を学校側の義務違反として訴える保護者の出現にも繋がるものなのでしょう。

旧制高等学校の教養教育を懐旧の対象又は模範とする発言が往々にしてありますが、それは超エリート教育への郷愁としか言えません。エリート意識は目的意識につながります。地域社会の尊敬を集め、学校当局にも認められた特権と旧制高校寮歌集に残る国土的なロマンチズムが旧制高校生を育てました。福沢諭吉が在学した幕末、大阪の「適塾」や大分の「咸宜園」

など私塾では、毎月(数回?)の厳しい試験が課され、退塾も少なくなかったようです。旧制高校ではその弊衣破帽の伝統は継いでも、達成度の厳しさは受継がず、人脈構築?と称して「裏表6年間」の落第を誇る豪傑も存在した由です。

ある時期の大学は「入るに難しく出るに易しい」と揶揄されましたが、それはエリート教育時代には大学の入学試験合格が一定の資質を保証してそれで足りたのです。我が国の企業には優れた企業内訓練(OJT)の伝統があって、資質のある従業員の訓練と生産性の確保に自信がありました。労働組合がわが国では企業内組合、欧米では企業横断的職域組合が夫々主流であることも預かって影響がありそうです。

文系の大学を選ぶのに、目的とする職業をハッキリさせないで、偏差値に従って志望を決める傾向があります。北欧諸国では高卒後の1,2年はボランティアや海外旅行などで見聞を広めてから大学への志望を決めるのとはずいぶん違います。目的意識を明確にしないままの職業教育、教養教育がどのような成果を挙げ得るかには疑問が残ります。特に最近のユニバーサル大学時代の学生にはエリート(選ばれた者)意識が乏しいにおいておやです。ひとえに教員の使命感、力量が問われるものでありましょう。

学校が厳しい「落第」制度とほど遠い場所であったことと社会人になってからの処遇との関連性がどのようなものか?何処かに通底するメンタリティがあったかと疑われるのが、戦前の我が国の諸官庁では高等文官試験の成績順位によって、役人生活の最期まで昇進が決まったという不思議さです。陸軍、海軍ともに陸、海軍大学校の卒業順位で出世(戦闘能力に関係なしに)し、それが太平洋戦争での敗因の一つと聞かされました。その弊風が何処に由来するのか?単純に内輪の争いを避け、仲良しクラブに徹したのか、私には分かりません。

日本人は農耕民族、欧米人は狩猟民族の末裔であることで、その性向の差異を説明しようとする試みがあります。農耕民族は栽培技術や地力の蓄積と災害時の共同防衛を必要とし、そのリーダーは「無為」を最大の人徳として「和を以て貴しと為す」が信条です。一方の狩猟民族は指揮の巧拙で獲物の多寡が左右されるため、指揮者の地位は隔絶して高く、現在形での「戦闘能力」と「危機管理能力」が最重要とされます。それが双方の社会構成の相違の根源とするのは単純過ぎる気も致しますが?如何でしょう。

# 「能動的学修の教員研修リーダー講座」のプログラムについて



一般財団法人全国大学実務教育協会 理事、  
実務・キャリア教育推進特別委員会 実施ワーキングチーム チームリーダー

高崎経済大学 教授 **大宮 登**

本協会のチャレンジングな新規事業が始まります。能動的学修の教員研修リーダー講座です。私たちがより良い教育を目指すときに必ず必要となる、能動的学修の理念、方法、実践力を身につけます。以下、その講座プログラムについてご案内いたします。

## 1. 講座のねらい

### <加速する大学教育の質的転換－能動的学修と本協会の取組み>

いまわが国の高等教育は、従来の知識の伝達・注入を中心とした学修から学修者主体の能動的学修へと質的転換を求められています。文部科学省で検討されていた「第2期教育振興基本計画」が平成25年6月に閣議決定されましたが、この基本計画においても、能動的学修が重要視されています。

その方針の下、国の補助事業に教育の質的転換、グローバル化などの組織的な取組みに対する支援が活発化しております。なかでも能動的学修(アクティブラーニング)は質的転換の重要な柱となるものです。これを実現する具体的な教育方法として、「課題解決型学修」(PBL)や体験学修などにスポットライトが当たっています。

本協会では、平成25年4月から「実践キャリア実務士」を新設し、その中核に「総合的実践実務」の学修を据え、能動的学修を効果的に進めるために、テキスト『実践キャリア考』を開発しました。また、6月に行われた創立40周年記念講演会では、「高等教育の質的転換について－知識・伝達注入授業から能動的学修へ－」をテーマとして取り上げ、9月には「課題解決型学修の実践事例研究会～『実践キャリア考』の活用を軸に～」を開催しました。

能動的学修を促進するためには、あらゆる科目において能動的学修への転換が必要になっています。しかし、担当できる教員は多くありません。研究志向で養成されてきた日本の教員は、能動的学修を効果的に実践できるトレーニングを受けていません。大学の組織も支援する体制がまだ整っていません。そのノウハウが蓄積され、教職員で共有されていないという課題も

あります。本講座は、能動的学修を推進する核となる教員を対象に、能動的学修に関する知の共有化を目指す意欲的な講座なのです。

## 2. 講座の特徴

### <充実した実践的な内容>

本講座のプログラムは、大きくは2段階の構成になっています。第1段階は事前に配付されるテキストを精読していただきます。第2段階では集合研修を、「基礎」(8月30日)、「実践応用」(9月27日)、「総合演習」(10月25日)の日程で実施します。集合研修参加にあたってはテキストの理解を確実にするために、参加者が自らテキストの内容に沿った理解促進テストの回答と新たな作問の上で参加していただきます。テキストの内容は、「能動的学修とは」「学修者から見た学びの技法」「体験学修の方法と評価」「能動的学修の実践－学修デザインの方法、運営、評価」「新たな学びと教職員の役割」など、理論的かつ実践的な内容です。

「基礎」の集合研修Ⅰでは、学びの技法を活かした個別実践活動の準備を、「実践応用」の集合研修Ⅱでは、能動的体験学修の授業デザインとその実践準備、ファシリテーターとしての役割と機能、効果的な実践方法を、「総合演習」の集合研修Ⅲでは、授業デザインを相互評価し、リーダーの心得と役割、各大学における学内問題解決をそれぞれ行う予定です。

### <講座の特色>

能動的学修をテーマにしていますので、本プログラムは参加者が主体的に参画し、能動的学修が学生の立場で実感できます。まず、各種技法の理論的背景を理解したうえで上手に運用できるノウハウを学びます。また、学びの技法や授業デザインの事例を多数紹介するとともに「そのまま使える」形に練り上げていく実践の場にもなります。そして、参加者同士の経験談や実践事例を交換する場も設けますので、能動的学修について少し経験のある方や全くの初心者の方でも新たな発見があり、自信をつける場にもなります。

皆さん、この講座を受講して、能動的学修についての全国指導者ネットワークを構築し、私たちとともに能動的学修プログラムを創り上げてみませんか。

# 平成25年度 実務教育優秀教員被表彰者寄稿



星美学園短期大学 人間文化学科  
教授

武田 秀美

星美学園短期大学は、イタリアのサレジアンシスターズという修道会によって設立された教育機関の一つです。本学の特色は、創立者ドン・ボスコ（カトリックの聖人）の唱えた「予防教育法」の実践にあります。これは、青少年が、将来、社会や職場や人生において遭遇するかもしれない事態に、自ら対処し解決できる力を養い、「誠実な社会人」として生きるための教育法を意味しています。

## 実務教育と星美の「予防教育」—実務教育優秀教員として表彰されて—

そして、本学の私が所属する人間文化学科では、この「予防教育法」を基に、学びと指導の四つの柱として「学びの力・仕事の力・暮らしの力・人とつながる心」を掲げ、学生の皆さんがこれらの力と心を身に付けることを目標とする教育を進めさせていただき、現在にいたりました。

また、最近の就職状況の実態から、「情報処理士」「上級情報処理士」や、医療事務関係資格などの、就職に有利な各種の資格が取得できるカリキュラムの充実化を図り、いわゆるキャリア教育を推進してまいりました。

私が担当している実務教育に関する科目は、「日本語の表現a・b」、「病院実務の実際」、「キャリア総合演習I・II」(学科教員・キャリアセンター担当)などです。実務教育の充実と向上のために、特に心がけているのは、基礎学力テストや授業毎に提出させるリアクションペーパーにより個々の学生の能力と習得の実態を掌

握して、次回の授業で一人一人の実務能力を確実に育成できる教材の作成と授業展開の工夫などです。

例えば、「日本語の表現a・b」では、作業のフローチャートや箱書シートを活用し、実務で要求される明晰な文章や小論文をまとめるためのロジカルシンキングの力を育成しています。さらに、実務におけるビジネス文書や資料・レジュメの作成、相手や場面や状況に応じた電話対応や、接遇マナーのロールプレイングなども、「予防教育法」を前提に、危機管理意識をもって、対人関係調整能力を育てる指導の工夫を行ってまいりました。

この度の表彰は、本学関係者の皆様の温かい支援のお陰であり、全国大学実務教育協会の方々のご高配の賜と、心から感謝申し上げる次第でございます。今後とも、微力ながら、本学の「予防教育法」に基づいた実務教育の充実のために努力を続ける所存でございます。



和歌山信愛女子短期大学 生活文化学科  
教授

大山 輝光

この度は、全国大学実務教育協会より実務教育優秀教員として表彰を賜り、心より御礼申し上げます。

本学は、和歌山県下唯一の短期大学として、保育士・幼稚園教諭・栄養士などの専門人材の養成と、生活文化・情報・医療・介護・福祉などの幅広い教養を身につけた地域社会の発展に貢献できる人材の養成に努めながら、地域とともに歩む大学として現在に至っております。入学生の9割以上が和歌山県内の出身者であり、その多くが地元就職するなど、「地域社会を支える人材の供給

## 地域を指向した実務教育

源」として地域と極めて深く結びついています。またそれ故に地域社会からの期待も大きく、「ボランティア論」や「キャリアデザイン」、「私たちが考える『和歌山だからできるお弁当』」など、教育内容に地域のニーズが活かされてきました。

その中で私は、「情報処理論」や「情報処理演習」、「CG」、「マルチメディア演習」などの授業を担当し、ビジネスの現場で求められる情報リテラシー能力や情報活用力、問題発見・探求・解決力の育成に取り組んでいます。また、人間の知的情報処理能力を人工神経回路によって実現する研究を基盤として、基礎的知識の活用力育成に向けた教材開発や、PBLに基づくカリキュラム開発などに従事し、これらの研究成果を取り入れながら授業内容の充実向上を図ってきました。

授業では、その日の学習内容と到達目標を明確に示すとともに、それを達成するための道筋をスモールステップに分割し、学習後には成長感と達成感が得られるように努めるな

ど、授業デザインの基本を大切にしています。また、ティーチングポートフォリオを作成して学生の主体的な学習を促し、授業に対する関心・意欲を喚起するよう工夫しています。2年次の「マルチメディア演習」では、協同学習を取り入れることで、今何が解決すべき課題となっているのかを把握し、その解決に向けてチームとして行動できる力を伸ばすことを目指しています。

昨年度、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に、本学が申請した取り組みが選定され、和歌山県における地（知）の拠点として、大学と地域がこれまで以上に密接につながり、学び合い、未来を広げる活動を展開していくこととなりました。COC事業を推進する担当者一人として、今後も企業・行政・NPOなどと積極的に関わりながら、学生の成長に結びつく実務教育の充実に向けて取り組んでまいりたいと存じます。

# 平成25年度 会長賞受賞者紹介 (No.1)

No.	資格名	大学名	学部・学科名	氏名	No.	資格名	大学名	学部・学科名	氏名
1	上級情報処理士	自由が丘産能短期大学	能率科	高橋はづき	35	情報処理工士	秋草学園短期大学	文化表現学科	松井 萌
2		相模女子大学	学芸学部	武藤 有沙	36		自由が丘産能短期大学	能率科	中村 まみ
3		清泉女学院大学	人間学部	荻原 千晶	37		星美学園短期大学	人間文化学科	斉藤真梨奈
4		名古屋女子大学	家政学部	安江 直子	38		富山短期大学	経営情報学科	高稲 夏希
5		京都光華女子大学	キャリア形成学部	河野 茜衣	39		仁愛女子短期大学	生活科学学科	吉田 有希
6		京都女子大学	現代社会学部	大石千妃呂	40		愛知学泉短期大学	生活デザイン総合学科	青山 暖奈
7		武庫川女子大学	生活環境学部	藤本 真澄	41		岡崎女子短期大学	経営実務科	兼佐 結衣
8		安田女子大学	現代ビジネス学部	山崎美由希	42		京都文教短期大学	ライフデザイン学科	山本ほのか
9		四国大学	経営情報学部	葉久 広美	43		大阪キリスト教短期大学	国際教養学科	木原裕実菜
10		久留米大学	文学部	白地 彩季	44		プール学院大学短期大学部	秘書科	室 知佳
11		福岡県立大学	人間社会学部	井上あかね	45		湊川短期大学	人間生活学科	竹森あゆみ
12		活水女子大学	文学部	松枝 恵	46		就実短期大学	生活実践科学科	原 奈津季
13		長崎純心大学	人文学部	鶴田 萌	47		精華女子短期大学	生活科学科	平島美由紀
14		富山短期大学	経営情報学科	舘 磨美	48		尚絅大学短期大学部	総合生活学科	秋好 美佳
15	処理工士	金城大学短期大学部	ビジネス実務学科	道 香澄	49	鹿児島純心女子短期大学	生活学科	吉井沙奈恵	
16		名古屋女子大学短期大学部	生活学科	井口 治香	50	鹿児島女子短期大学	教養学科	肥後 香織	
17		高田短期大学	オフィス人材育成学科	山田 麻美	51	十文字学園女子大学	人間生活学部	加藤早百合	
18		滋賀短期大学	ビジネスコミュニケーション学科	出口 真帆	52	相模女子大学	学芸学部	西川恵莉加	
19		四條畷学園短期大学	ライフデザイン総合学科	井上 悠理	53	横浜美術大学	美術学部	福本沙也香	
20		和歌山信愛女子短期大学	生活文化学科	坂東沙貴子	54	武庫川女子大学	生活環境学部	石野 詩帆	
21		鳥取短期大学	生活学科	藪内みなみ	55	鹿児島女子短期大学	教養学科	大窪みゆき	
22		中国短期大学	情報ビジネス学科	上野 勝幹	56	近畿大学	総合社会学部	金 一男	
23		安田女子短期大学	秘書科	西口恵利子	57	大手前大学	現代社会学部	宮地 優実	
24		高松短期大学	秘書科	高橋 杏奈	58	常磐短期大学	キャリア教養学科	小塚 麻衣	
25	情報処理工士	松山東雲短期大学	秘書科	松本 萌花	59	湘北短期大学	総合ビジネス学科	陶山 春香	
26		久留米信愛女学院短期大学	ビジネスキャリア学科	池邊 美穂	60	プール学院大学短期大学部	秘書科	重吉 遥奈	
27		相模女子大学	学芸学部	木頭 香織	61	鹿児島純心女子短期大学	生活学科	亀澤 悠菜	
28		京都女子大学	発達教育学部	井上友希子	62	京都文教短期大学	幼児教育学科	前川莉瑛子	
29		京都ノートルダム女子大学	人間文化学部	藤原 愛華	63	宮崎学園短期大学	保育科	谷口 夏希	
30		國學院大學北海道短期大学部	国文学科	新鞍 志帆	64	大阪河崎リハビリテーション大学	リハビリテーション学部	串 芳樹	
31		青森明の星短期大学	子ども学科	天間 千織	65	九州保健福祉大学	保健科学部	田爪 琢大	
32		聖霊女子短期大学	生活文化科	藤原 妙華	66	甲子園短期大学	生活環境学科	松本 恵里	
33		東北文教大学短期大学部	総合文化学科	森 愛美子	67	新潟青陵大学	看護福祉心理学部	戸田 香子	
34		福島学院大学短期大学部	情報ビジネス科	江幡 美奈					

大学名、学部・学科名は平成26年3月31日現在である。

# 武蔵野学院大学・必修キャリア教育と 就活指導との連携

武蔵野学院大学 学長・教授 高橋 暢雄



## 1. 概略

私共武蔵野学院大学(以下、本学)は、近時の社会的要請に従ってカリキュラム変更を行い、2012年度から順次キャリア教育を見直すと共に、就職部の就職活動指導を改良し、現在もそのチャレンジを全学挙げて続けています。結果として2013年卒の就職率が「93.2%」、2014年卒の就職率が「96.2%(除留学生100%)」という成果を収めることが出来ました。

## 2. キャリア教育の見直し

本学は開学以来丁寧な学生対応をするべく、1・2年生に担任制を敷き、3年・4年生のゼミを必修化しています。更に、全教員が集う水曜日に単位にならない授業としてHRを設けていました。ここから学生生活の意識を高める目的の実践を盛り込むようになり、「インテリジェンスレッスン」と銘打って著名人や実務家のライブ感ある講演を定期的にも実施していました。

しかし、丁度カリキュラム変更議論があり、キャリア教育を整備し就活指導との連携をすべきとの意見が多く、2012年度から私が主担当者となってキャリア教育を再構築することとなりました。2013年度からは1年生から順次必修化し、3年生まで「キャリアデザイン」という講義名でキャリア教育を実施しています。他科目も含め整備し「実践キャリア実務士」の資格取得も可能となりました。

## 3. 就職活動指導の見直し

他方、就活指導も焦点量けのような指摘を受けるようになりました。キャリア教育を見直しするにあたって、1年次から働くことの素晴らしさや難しさを理解してもらうには、最終的に学生全員が社会人として自立するという形に出来るようにすべきと、就活指導も見直しすることとなりました。開始半年経って、内定者が10%程度と結果が出ず様々な問題もあったことから、こちらも私が9月途中から就職部長を兼任し現場に加わることになりました。

就活指導もキャリア教育も、進め方に目新しいものは一切ありません。ひとつひとつを丁寧に行い、時々判断を先送りにせず、社会や企業さんの求めることをキチンと学生に伝えることを愚直に行いました。経済情勢の好転などもあったのだとは思いますが、その後雰囲気も変わり学校基本調査のような数値ではなく、就職率93.2%という結果を出すことが出来ました。2013年度は更に96.2%まで数字を伸ばすことが出来ました。今年度、私は就職部長の兼任は解かれましたが、更に皆と改善に取り組みたいと考えています。

## 4. 本学のキャリア教育と就活指導の連携とそのねらい

さて、肝心な連携の指導とその内容ですが、具体的なメソッドやスキルでは効果は薄いのが本当のところです。全学を挙げ、全教職員が真剣に全学生と向き合うと

いうことに尽きると思います。

キャリア教育は現在私とビジネス出身の非常勤の先生2名が担当していますが、1・2年生の講義では担任の先生方にも全面的な協力をいただいています。それにより行事の話や履修関係の話、生活上の注意までも網羅して学生と対話出来る形が出来ています。キャリア教育としては「実践キャリア考」のような参考書を下敷きにワークを行ったりするだけでなく、実務家からの講演を盛り込んだり、短期留学や英語学習のモチベーション向上に取り組んだり等、都度の大学生活に即した講義にすることが出来ていると感じています。

また、就活指導も、3年生年初からゼミ担当教員と連携することで、ゼミと就活もしくは大学院進学が直結していることを学生に意識してもらえていると思います。ゼミ担当教員の協力も大きいのですが、何よりも大切なのは就職部担当者が3年生の就活解禁までにゼミとの交流をすることで、全学生の顔と名前が一致するまで関わられていることです。それにより、就活開始後も学生のタイプに合わせた指導が出来ていると感じています。

このように自分の担当に閉じこもり、ある種のセクト主義が発生しないように工夫することが、低学年のキャリア教育から高学年の就活指導までを連携させているポイントであると考えています。全ての教職員が全員の学生の自立を目指して真剣に面倒を見るという体制になることで、学生にもそれが伝わり活気が出るように感じています。

他大学さんの動向には無頓着にやらせていただいている面もありますが、京都産業大学さんからスタッフの方に月一回ご指導に来ていただいています。キャリア教育の面でも就活指導の面でも学ぶところが多く、大変勉強になっています。

## 5. 今後の方向性

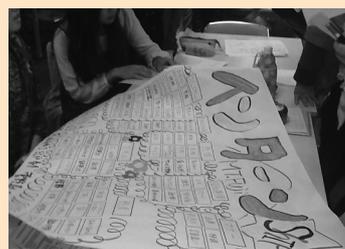
本学では、キャリア教育や就活指導に数値的な目標を設けていません。就職率で他大学さんと競うくらいなら、学生ひとりひとりがどの道であれ自立をして社会に資する人間に成長してもらふ素地を作ることが大切であると感じています。現代の学生達は、社会の発達への反動で一般的な社会性が明らかに低下しているように思います。良いとか悪いとかではなく、現状を受け入れ学生の居場所を作り、何を学生と考えて前進するかを見極めることが大切なのでしょう。

然るに、キャリア教育や就活指導という分野の重要性は益々増すことと思われます。何故なら、大学の中で「最も学生の素が出る」分野でもあるからです。本学でもそれらを念頭にひとつひとつ改善しながら、丁寧に学生と向き合っていきたいと念願しております。

ご高覧ありがとうございました。本稿へのご質問等ございましたら、ご遠慮なく協会までご連絡を頂戴出来れば幸いです。協力し合って行ければ幸甚に存じます。

## 桜の聖母短期大学の主体的学びの 取り組み

桜の聖母短期大学 教授 加藤 竜哉



桜の聖母短期大学(以下、本学)は、カトリックの精神に根ざした人間観・世界観に基づく知的・倫理的見識を養い、愛と奉仕の精神をもって社会貢献を志す人を育成することを目指しています。キャリア教養学科と生活科学科があり、生活科学科は福祉こども専攻こども保育コースと食物栄養専攻に分かれています。キャリア教養学科は、本学伝統の英語学科と生活科学科福祉こども専攻ライフデザインコースを融合し、平成24年度に新設しました。本学は現在、文部科学省大学間連携共同教育推進事業の「学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進」(以下、学士力養成事業)と産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の「産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成」(以下、産業界ニーズ事業)の採択を受けています。ここでは、2つの事業と主体的学びの取り組みについてご紹介します。

学生が自ら学び、一生涯を豊かに生きるキャリアを育むための“種”、その中で特に語学力の重要性は、ますます高まっています。本学では、学士力養成事業を利用して日本語と英語の基礎学力確認テストを入学式前日に実施しています。日本語のテスト結果は、1年前期の共通科目「ベーシックスキルズ(全学必修)」で取得が義務付けられている日本語検定試験の受験級決定に役立てます。確認テストの結果を踏まえ、学生は学士力養成事業で構築したeラーニングや個別指導を含む課外学習に主体的に取り組みます。学びの成果は、6月と11月に実施する日本語検定試験で結実します。2年次4月に行われる日本語到達度テストで自分の伸びを確認し、さらに上位の級を目指します。昨年は、日本語検定2級に合格した学生もおります。英語の基礎学力確認テストの結果は、1年前期の共通教育科目「英語ⅠA(必修)」に活用します。キャリア教養学科では「TOEIC演習」科目にも利用しています。情報教育でも、情報と数学の基礎学力確認テストを実施しています。基礎学力確認テストや到達度テストは、自分の強み・弱みを知ることができるツールとして定着してきました。編入時の英語や小論文、各種資格取得や就職での適性検査、公務員試験受験のための基礎学力向上につながっています。

学生の実践力を養うPBLは、多くの科目で取り入れられています。たとえば、東日本大震災後の復興を担える強い人材の育成と実践的な学びを目的とし、平成24年に1年通期の共通科目「福島学」を開講しました。福島を支えている地域の方々と、共に考え行動する学びをアクティブに展開しています。

産業界ニーズ事業では、特に1年前期共通科目「インターンシップ」の改善に取り組んでいます。生活科学科には、保育実習・幼稚園実習・給食管理学内外実習など、

専門的素養とジェネリックスキルを確認できる実習科目があります。一方、キャリア教養学科には実習がありません。そこで、キャリア教養学科の学生は「インターンシップ」を必修科目にしています。企業決定に当たっては、本学がマッチングを行うのではなく、学生が志望理由や自己PRを記載した写真付きの申込書を企業に提出し、企業側が受け入れを決定する仕組みを取り入れています。2年次の就職活動で作成する履歴書と似た書類でインターンシップ受入企業とやり取りしますので、書類には熱意と意欲が求められ、終了後の企業評価もあり、実践的です。インターンシップ期間は、5日間以上としています。5日間で終了する学生もおりますが、5日間のインターンシップを2つの企業で行う学生もおり、「単位取得のためだけに」履修する学生が減っています。昨年は200時間を超える学生も2名おりました。1年次でのインターンシップ実施は、該当科目と他科目との連携を行うことで、その効果が認められつつあります。産業界ニーズ事業の連携大学の中には、従来3年次で行っていたインターンシップを1年次で試行することも始まりました。さらに、産業界ニーズ事業の一環として、昨年は34名の学生が盛岡に集い、「4大学連携インターンシップ学生交流大会」を1泊2日で実施しました。ワークショップを通じて、互いにインターンシップ体験を共有し、学びを深めることができました。今年度も実施予定です。

学生のコミュニケーション能力育成も重要です。本学ではコミュニケーション力を把握するツールとしてBCSA(ビジネス・コミュニケーション・スキル診断)を採用しています。まず1年次の8月に実施し、1年後期の共通科目「ビジネス実務Ⅱ」で、その診断結果を振り返りながら、さまざまなワークショップやディスカッションを行います。2年次4月に再度BCSAを受診し、1年次8月の結果と比較しながら、顧問面談や進路部(平成26年度からキャリア支援センターと名称変更)で、学生のコミュニケーション力向上を支援しています。

eラーニングシステム、学生カルテ、学生ポートフォリオを結合したシステムも導入し、学生一人一人に対する教職員の情報共有も進んでいます。学生ポートフォリオを使って、学生は自らの歩みを振り返ることができるようになりました。

以上のような結果、本年3月に卒業した学生では、編入希望者全員が四年制大学へ進学しました。就職では、生活科学科が就職率100%を達成しました。

学生が自ら主体的に学ぶ仕組みを構築し、単に知識を獲得する“学習”から、自ら考え行動し実社会で活用できる“学修”への思想転換を促す教育を今後も実践・改善して参ります。

## ◆能動的学修の教員研修リーダー講座を開催◆

能動的学修の教員研修リーダー講座を下記により開催いたします。

この講座は、多くの大学が取り組んでいる能動的学修への教育の質的転換の核となる教員のリーダー講座を目的として開催するものです。講座のプログラムは2段階構成になっていて、第1段階として配付するテキストの精読により能動的学修について理解を深めていただいた後、第2段階として集合研修を3回(基礎、実践応用、総合演習)実施します。本協会では、今後継続的にこの講座を実施することを予定しています。

なお、会員校へのご案内は、理事長・学長様に宛て4月11日に発送いたしました。

日時：集合研修Ⅰ(基礎)

平成26年8月30日(土) 9:30～17:30

集合研修Ⅱ(実践応用)

平成26年9月27日(土) 9:30～17:30

集合研修Ⅲ(総合演習)

平成26年10月25日(土) 9:30～17:00

場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)

## ◆会員校教育責任者・連絡責任者等説明会を開催◆

会員校教育責任者・連絡責任者等説明会を下記により開催いたします。

本協会は、会員校協議会を会員校代表者を対象に開催してきましたが、本協会の事業についてご説明するほか、会員校の皆様のご意見を聴取し、本協会の運営に反映させるため、本年度は対象を教育責任者・連絡責任者様に特定して開催いたします。また、実践キャリア実務士やリニューアル®資格など、参加者がお聞きになりたい項目を中心に説明する予定です。

なお、説明会終了後に、資格教育課程申請等の相談に個別に対応する会員校個別相談会の開催も予定しています。

会員校に対する通知は5月8日に発送いたしました。

日時：平成26年6月28日(土) 13:00～14:45

(会員校個別相談会は、同会場で15:00～16:40を予定しています。)

場所：ニッキンホール

東京都千代田区九段南4-3-3

シルキーハイツ九段南2号館2階

JR/地下鉄市ヶ谷駅下車徒歩5分

## ◆中小企業家同友会全国協議会との懇談会を開催◆

本協会は、中小企業家同友会全国協議会(以下、「中同協」という。)との懇談会を平成26年3月29日アルカディア市ヶ谷(私学会館)において開催しました。

この懇談会は、産業界との相互理解を深める交流を推進するために企画したもので、中同協の常任幹事・共同求人委員長であり、本協会理事の小暮恭一氏のご協力により実現しました。中同協の共同求人委員会関係者4名、協会関係者6名が参加し、「最近における大学教育の動向と変化」「企業における人材育成や人材活用のあり方の変化」をテーマに意見交換が行われました。本年度も引き続き、懇談の機会を持つことを予定しています。



## ◆平成26年度新規入会及び新規教育課程認定等の申請期限◆

新規入会及び新規教育課程認定等の平成26年度の申請期限は、平成26年7月25日(金)及び平成27年1月26日(月)です。

なお、すでに承認を受けている教育課程の変更(科目の追加・削除、科目名の変更、協会承認の◎印の専任教員の変更等)についても、変更実施前に事前に上記提出期限までに申請する必要があります。

## ◆平成25年度資格認定証授与数は11,442件◆

平成25年度資格認定証授与数は11,442件でした。その内訳は大学3,125件、短期大学8,317件でした。

従前の全国大学実務教育協会からの資格認定証授与数の総数は579,991件となりました。

平成25年度の資格認定証授与数の上位10資格は次のとおりです。

- |          |        |               |      |
|----------|--------|---------------|------|
| ①情報処理士   | 2,560件 | ⑥プレゼンテーション実務士 | 641件 |
| ②ビジネス実務士 | 2,022件 | ⑦ウェブデザイン実務士   | 544件 |
| ③上級情報処理士 | 1,382件 | ⑧秘書士(メディカル秘書) | 439件 |
| ④秘書士     | 1,355件 | ⑨上級ビジネス実務士    | 334件 |
| ⑤上級秘書士   | 703件   | ⑩実践キャリア実務士    | 288件 |

## 平成26年度 新規会員校一覧

(平成26年4月1日入会)

〈大学 7校〉

No.	大学名	学長名	住所
1	金沢学院大学	秋山 稔	〒920-1392 石川県金沢市末町10
	申請資格	ウェブデザイン実務士、情報処理士®、上級情報処理士®	
2	東海学院大学	神谷真弓子	〒504-8511 岐阜県各務原市那加桐野町5-68
	申請資格	実践キャリア実務士、秘書士®、上級秘書士®、上級秘書士®(国際秘書)、上級秘書士®(メディカル秘書)、情報処理士®、上級情報処理士®	
3	東大阪大学	一色 尚	〒577-8567 大阪府東大阪市西堤学園町3-1-1
	申請資格	ビジネス実務士®	
4	プール学院大学	蔵田 實	〒590-0114 大阪府堺市南区横塚台4-5-1
	申請資格	実践キャリア実務士	
5	帝塚山大学	岩井 洋	〒631-8501 奈良県奈良市帝塚山7-1-1
	申請資格	NPO実務士	
6	神戸医療福祉大学	都築明寿香	〒679-2217 兵庫県神戸郡福崎町高岡1966-5
	申請資格	実践キャリア実務士、ビジネス実務士®	
7	尚綱大学	大羽宏一	〒861-8538 熊本県熊本市北区榎木6丁目5-1
	申請資格	秘書士®、上級秘書士®、ビジネス実務士®、情報処理士®、上級情報処理士®	

〈短期大学 1校〉

No.	大学名	学長名	住所
1	東海学院大学短期大学部	神谷真弓子	〒504-8504 岐阜県各務原市那加桐野町2-43
	申請資格	実践キャリア実務士、秘書士®、上級秘書士®(メディカル秘書)、こども音楽療育士	

会員校

平成26年4月1日現在

- 大学 ..... 90校
  - 短期大学 ..... 122校
- 計 212校

## 平成25年度 実務教育優秀教員被表彰者名簿

〈短期大学〉

No.	大学名	氏名	所属	職名	担当科目
1	星美学園短期大学	武田秀美	人間文化学科	教授	「言語表現a」(のち「日本語の表現a」) 「言語表現b」(のち「日本語の表現b」)
2	京都光華女子大学短期大学部	石丸淑子	ライフデザイン学科	准教授	「添乗実務」 「女将論」 「ホスピタリティ論」
3	和歌山信愛女子短期大学	大山輝光	生活文化学科	教授	「情報処理論」
4	鹿児島純心女子短期大学	中村民恵	生活学科	講師	「秘書実務Ⅱ」

※大学名、所属、職名は平成26年3月31日現在である。(敬称略)